

## 母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

第29回日本小児科医会総会フォーラム  
2018.6.24

わたなべ小児科医院（石川県金沢市）  
渡部礼二

**日本小児科医会**  
**COI (Conflict Of interest:利益相反)開示**

**発表者:渡部 礼二**  
**利益相反に関する**  
**開示事項はありません**

**平成30年6月23日**

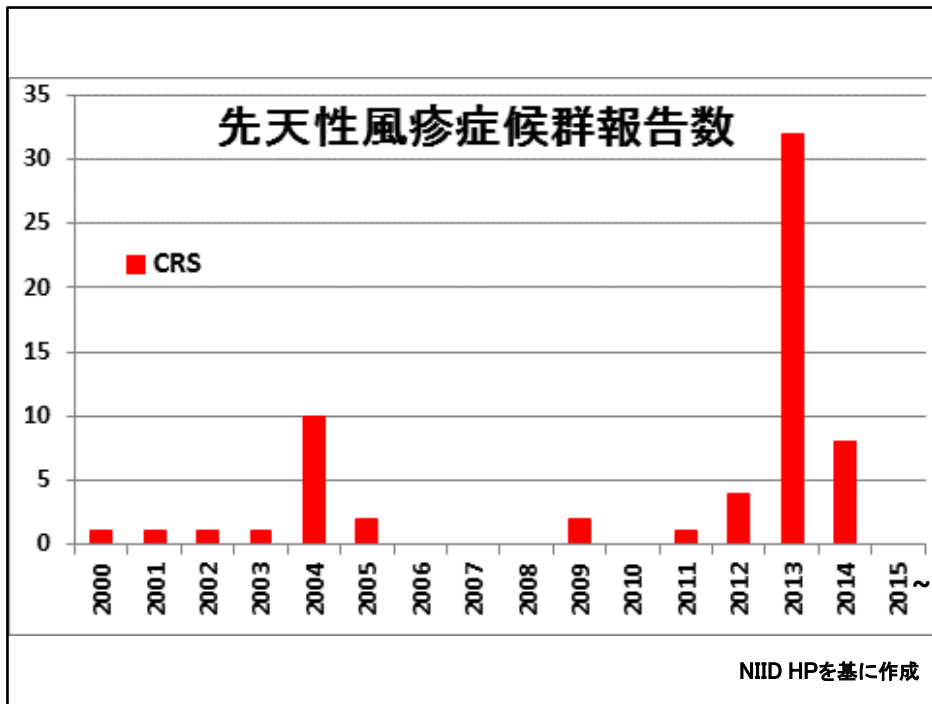
この演題に関してCOIはありません。

## 定期接種としての風疹ワクチン

2018.6.1現在

年齢	生年月日	接種年齢(1回目)	接種年齢(2回目)	
～13y2m	2005.4.2～	1y時(MR)	小学入学前1年間でMR	↑ 個別接種 ↓
～18y2m	2000.4.2～2005.4.1	1y～5y(R)	小学入学前1年間でMR	
～23y2m	1995.4.2～2000.4.1	1y～7y6m(R)	中学1年でMR	
～28y2m	1990.4.2～1995.4.1	1y～7y6m(R/MMR)	高校3年でMR	
～30y8m	1987.10.2～1995.4.1	1y～7y6m(R/MMR)		
～39y2m	1979.4.2～1987.10.1	中学男女		
～56y2m	1962.4.2～1979.4.1	中学女兒のみ		

風疹ワクチンの目的は/先天性風疹症候群（以下C R S）の発生を予防することにあります。その為に、50年以上試行錯誤して来た結果が/現在の接種制度であります。現在の妊婦たちの年齢は黄色の字で示してあります。



CRSは2004年に10人、2012年から13年にかけての風疹の大流行の後(あと)145名が報告されました。

**風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言** 平成16年8月

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨
2. 定期予防接種勧奨の強化
3. 定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される者への接種強化
  - 1) 10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望あるいはその可能性の高い女性
  - 2) **産褥早期の女性**

**妊娠中の風疹HI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の女性は、出産後早期(産褥1週間以内の入院中、もしくは1か月健診時に行うことが推奨される)に接種を受けることが強く勧められる。(その際の接種記録は、母子手帳の児の欄には記録せず、妊娠経過の欄或いは産後早期の経過欄に母親への接種であることを明記する。または、予防接種証明書を発行し、本人の記録として残す。)**

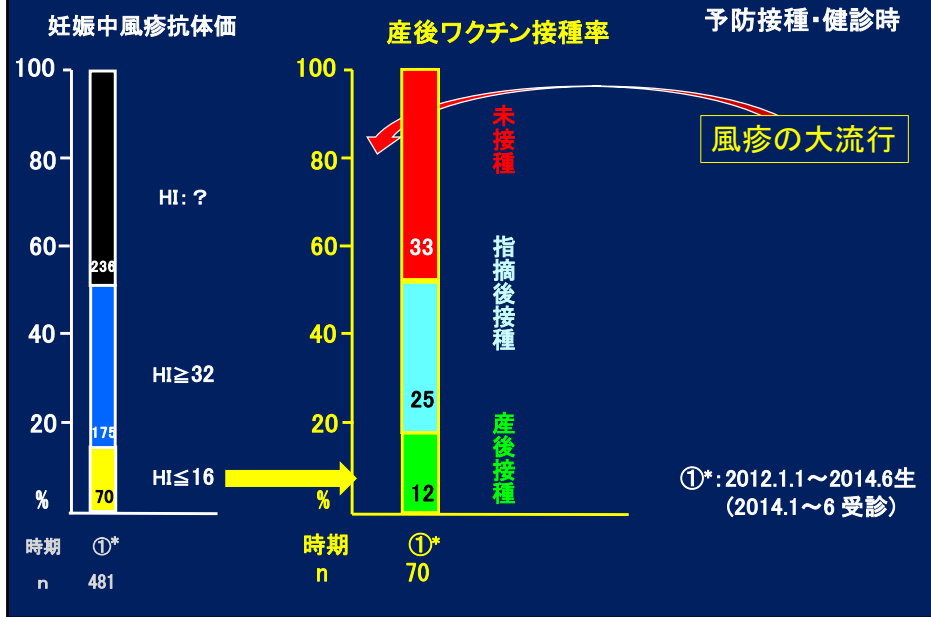
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班

先の2004年のCRS発生の後(あと)に/厚労省研究班からの緊急提言が出され、風疹低抗体価の産褥婦には/産後早い内にワクチンの接種を勧めております。同様に/日本産婦人科学会と医会からも推奨レベルCではありますが出されております。

検査結果報告書		
医院名 (01495) 〇〇病院(産科)	受付平成 25 年 2 月 26 日 カル子№. 41936	
患者名 〇〇〇〇	殿 年齢 歳	
検査項目	結 果	基 準 値
RPR法定性	陰性	陰性
TPHA定性	陰性	陰性
HCV抗体	陰性	陰性
HBs抗原定性	陰性	陰性
ABO型	O	
Rh型	(+)	
トキソプラズマ抗体	80未満	160倍以上陽性
HTLV-I抗体	16未満	16倍未満
風疹HI	16	8倍未満
血糖	64	70-100
HIV抗原・抗体	(-)	(-)

風疹大流行の2013年の暮れに、母子手帳の「妊娠中の検査」のページに/ HIの低い伝票が貼ってあったので、母親に聞くと、抗体価が低いことも、予防接種をしなければならない事も知りませんでした。

## 妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



その様な症例が続いたので、翌月の1月から半年(とし)間に/予防接種や健診で受診した者の内、風疹が流行した2012年1月以降に生まれた児の母子手帳で/抗体価のチェックと/ワクチン接種状況を聞き出しました。抗体価が判らない場合は産科に個々に問い合わせてもらいました。

対象を生年月日で統一した為、抄録とは数字が異なっております。  
—スライドを説明しながら—

HI32倍以上の群には /HIが不明でも /既に2回接種している者、前の妊娠中のHIが32倍以上の者、前の分娩後ワクチン接種した者も含まれています。また双子は1人として処理しました。(日本環境感染学会)

こちらは全ての母親を100%、こちらはその内の/低抗体価だけの母親を100%として示してあります。

約半数に抗体価が判りましたが、その内29%が低抗体価で、その低抗体価だった者の内の17%しか/産後ワクチンをしていませんでした。

36%は指摘後に/当院等で接種をしたもので、指摘しなければ83%は放置された事になります。数字は実数であります。(計53%)

これが！風疹大流行でCRSが多数発生し、マスコミが騒いでいる最中に/出産した妊婦の実情でありました。

## 産科では

- ・ 低抗体価の産褥婦にガイドライン通り  
ワクチン接種・・・一部
- ・ 抗体検査未実施
- ・ 希望者のみ抗体検査
- ・ 2子以降検査未実施
- ・ 3子以降接種せず
- ・ 低抗体価も接種勧奨せず
- ・ 低抗体価を従来の $HI \leq \times 8$ で判断
- ・ 授乳中は接種せず
- ・ ワクチンの在庫(一)      ..などなど色々

接種しなかったのはスライドの様な理由でありました。余りにもお粗末だったので、その年の外来小児科学会等/全国レベルの学会で報告し、市医師会報及び県産婦人科医会報に載せて頂きました。



### 低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防接種を！ 乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

担当理事 渡部 礼二

1 昨年从去年にかけての風疹の嵐の後、その前報として本年度は32例、本年度は既に8例の先天性風疹症候群（以下CRS）の報告が感染症学センターになされています。

CRSを予防するには妊娠する前に風疹に対する抗体を維持して風疹に罹患しないようにすることが、抗体価の低い人はワクチン接種で抗体価を上昇させることである。妊娠が判明すると例外を除いてどの場合、胎児の抗体価を報告される。抗体価が低い（HI≦1/16）妊婦は妊娠20週までに風疹に罹患すると胎児にCRSを発生するおそれが多いので、人混みを避けるなど風疹に罹患しないよう注意がなされる。風疹に罹患せず抗体価が低いまま分娩したとしても、次子を妊娠する前（今回の産前早期にワクチンの接種を勧奨することになっている男労省・日本産婦人科医会）。

金沢市内の小児科で今年1月から4月に5ヶ月、1歳、2歳の乳幼児保健相談で受診した際、母子手帳で妊娠中の風疹の抗体価を測るものだけ記録し、真かつものにはワクチンの接種の有無を聞いた。135名の健診児の内訳で32は16の15名の内ワクチンを接種しているのは分娩後に1名だけであった。また1名はワクチン未接種のまま次子を産んでいた。

同様の調査が5月に3ヶ月児の集団健診で市内の一つの保健健康センターで「ロックスデータ」として行われた。110名の健診児の内、32は48名、51は36名、不明は26名であった。51の36名の内接種を勧奨された一部の8名だけがワクチンを接種していた。16名は接種勧奨もされなかった。

マスクにもあれ程騒がれた風疹流行の真っ只中から直後に判明した抗体価の低い妊婦であったにも関わらず、分娩後のワクチンの接種が余りにも少ない。一歩風疹ワクチンへの意識が低く、次子の妊娠時に一部CRSの危険性が低いと思われる集団でのことである。風疹の流行がなかった地域と

はいえ、この状態では風疹が入り込むとCRSは必発である。風疹抗体価の妊産婦が分娩後早々にワクチンの接種勧奨は当然であるが、小児科でも健診時に母子手帳をチェックして接種の勧奨をし、CRSの児が生まれないようにしなければならない。我々は本土復帰前の沖縄でのCRSの多発を忘れてはいけない。

なお、石川県産婦人科医会にはこの事実を報告後、早々に会員への注意を会報等に掲載された。



石 産 医 報 第 8 号  
平成 26 年 6 月 3 日

#### 会 員 名 位

石川風産婦人科医会

会長 伊 田 俊 彦



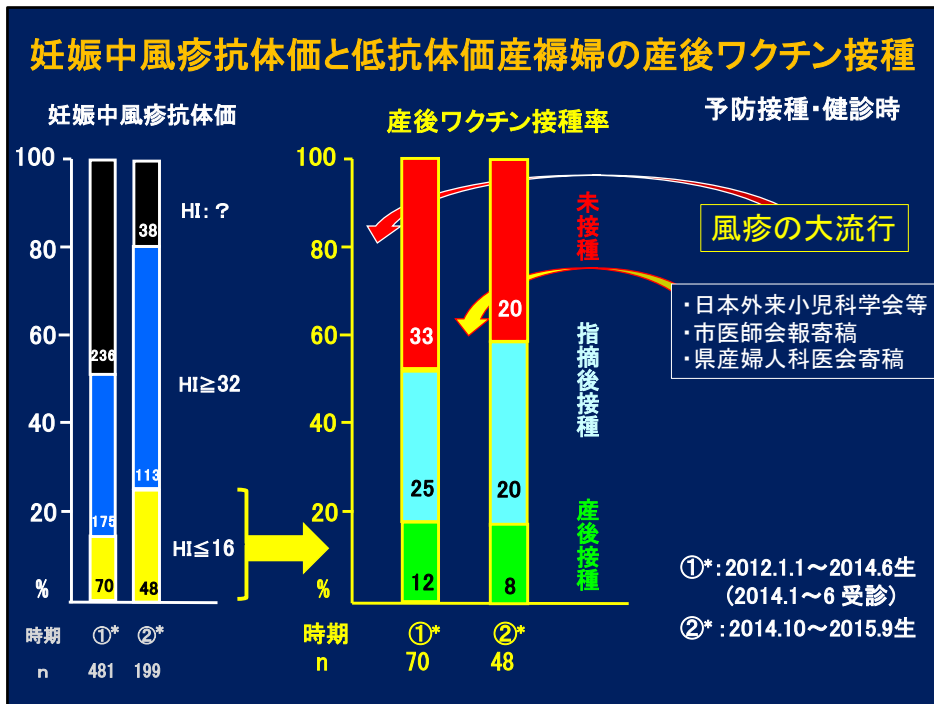
#### 産後の風疹ワクチン接種勧奨について（お願い）

産後の換 ますますご清辨のこととお要（申）し上げます。  
今般、金沢市内の産小児科医から、産後期の風疹抗体価が異常に低いという報告を受けました。以下は、6か月・1歳・2歳児健診時の母親の風疹抗体価の統計です。

2歳児健診	総数 30 : 51 6 名 (内 1 名は除籍前に妊娠)、32 8 名、不明 21 名
1歳児健診	総数 42 : 51 6 4 名 (内 1 名は分娩後接種)、32 9 13 名 (内 1 名は上の死の時の数)、不明 25 名
6か月健診	総数 63 : 51 6 8 名 (総て接種済)、32 30 名、不明 25 名
◆135名中判明している15名の産前抗体価で産後ワクチンを接種したのは1名だけ、 ◆殆どは抗体価が低くワクチンの必要性がある事も知らなかった。 (注：不明はデータの記載がないか、低価が母子手帳に使んでないもの)	

このように、産後に風疹抗体価が非常に低いことがあります。このような状態で北陸に風疹が流行すればCRSは必発です。各医療機関におかれましては、抗体価の低い産婦に産後早々の接種勧奨をお願いいたします。

# これはその時の市医師会報と県産婦人科医会報であります。



そしてその後(あと)に出生した2014年の10月から1年間、同様のデータをとりました。相も変わらず/低抗体価の者の内17%しか/産科で接種をしていませんでした。指摘後の接種を含めてトータル58%の/接種率でした。

要望書

2016年6月19日

石川県産婦人科医会会長 荒木克己殿

石川県小児科医会会長 斉藤建二

風疹低抗体価産褥婦に対する産後ワクチン接種勧奨に関する要望

開発当初より風疹ワクチンは先天性風しん症候群(CRS)の発生予防をエンドポイントとして接種体制の変遷があり、2006年から現在の麻疹風疹混合ワクチンでの2回接種になりました。しかし、2004年には10例、2013から15年にかけて45例(内7名死亡)のCRSが報告されました。

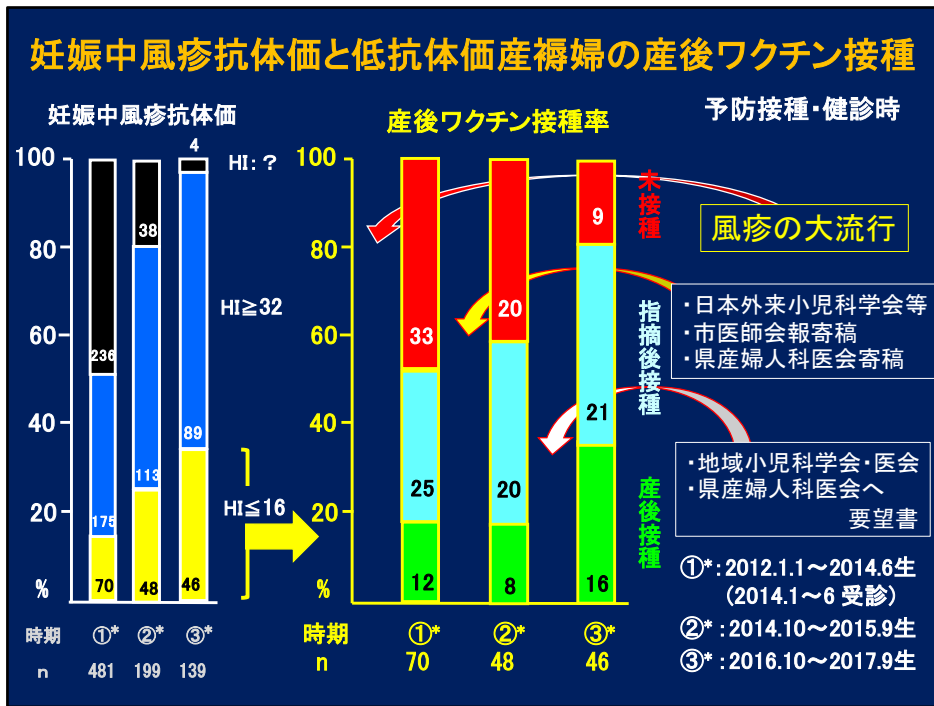
2004年8月に「風疹流行および先天性風疹症候群発生抑制に関する緊急提言」が厚生労働省からなされ、その後日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、さらに2013年からの流行で再び厚生労働省から、低風疹抗体価の妊産婦に対する産褥期早期風疹ワクチンの接種も勧奨しております。

妊婦の風疹低抗体価は20%超と報告されており、石川県でも2015年度に小児科医会会員の母子手帳等での外来調査では、25%超(52/186)が接種勧奨のHI $\leq$ 16であり、しかもその内産褥早期に産院で13%(7/52)しかワクチン接種されていないという発表がありました(2014年には年齢対象、調査期間は違ってもHI $\leq$ 16:22%、接種率20%)。

妊娠適齢期の年齢でしかもこの後次子を授かりやすい境遇にある風疹低抗体価の産褥婦であります。また石川県で風疹の流行が少なかったとは言え、全国で大流行しマスコミを騒がせた直後の値であります。

1965年の沖縄の流行でCRS408人を我々は経験しての今回のCRS報告であります。風疹は約5年毎に流行しております。風疹低抗体価の産褥婦には次子のCRS発生予防の為にまた社会免疫の為に、産後早期に少しでも多くの風疹予防接種の接種を小児科医会として切望しているものであり、貴会会員への厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産婦人科学会からの勧告・ガイドライン等に沿っての接種勧奨及び実施の周知を強く要望するものである。

接種率があまり変わらなかったで、地元の小児科の学会で報告し、また/県小児科医会から県産婦人科医会へ/今度は文面で接種勧奨をお願いして頂きました。これはその要望書であります。県産婦人科医会では、医会の総会で/その報告をし、接種勧奨を訴えたそうであります。



その後(あと)の1昨年10月から1年間に生まれた児のカルテを調べました。今度は低抗体価の内の35%は/産後産科でワクチンを接種されていて/当初の2倍に/接種率は増加しております。その後(あと)46%が接種し、計81%に接種が出来ます。

産科への働きかけが/少しは功を奏したものと/思っております。

これらデータは1診療所でのものですが、接種行動には小児

科での抗体価チェックと/接種勧奨が非常に大きなウェイトを占めております。接種勧奨は小児科初診である1ヶ月健診や初回の予防接種の時に/接種勧奨ができます。その次の予防接種の時/母親への接種確認と/催促も出来ます。

またこれらの運動を通じて/金沢市では新生児訪問保健師が/ワクチンの接種を勧めてくれるようになり、またこの4月からは接種に対し助成が出るようになりました。

## 結語

風疹低抗体価の産褥婦は産後早々に接種を！

母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

小児科でも母親への風疹の予防接種を！

産科にも声を掛けよう！

結語であります。

風疹ワクチンの接種は産科に任せっきりにしな  
いで、小児科でも母子手帳で母親の風疹抗体価の  
チェックをし、積極的にワクチンの接種をしまし  
よう。